

令和6年度第4回青谷地域振興会議議事概要

日時：令和6年8月20日（火）午後1時30分～3時00分

会場：青谷町総合支所第2・3会議室

【出席委員】

長谷川和郎、浜江和恵、徳田章人、松下達夫、久野浩太郎、植田 隆、塩とみ子、松岡礼子、大石剛史、大谷 茜

【事務局】

佐々木支所長、田中副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局青谷町分室長）、高野産業建設課長、山田地域振興課長補佐、竹氏ねんりんピック推進室参与、伊藤ねんりんピック推進室主任

【日程】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議題

【報告事項】

- (1) 【ねんりんピック推進室】シャトルバス（支所⇄布勢会場）の運行について（資料1）
- (2) 地域振興会議会長会について（資料2）
- (3) 総合支所改修工事について

【協議事項】

- (1) 地域振興未来プランの策定について（資料3）
- 4 その他
- 5 閉会

≪議事概要≫

<報告事項>

- (1) 【ねんりんピック推進室】シャトルバス（支所⇄布勢会場）の運行について
事務局（ねんりんピック推進室）より説明

【委員】バスの行きと帰りのおおよその出発・到着時間を教えてほしい。

【事務局】布勢の会場へ一度に各地域のバスが向かうと混乱してしまいますので、少しずつらすような運行にしております。今の時点の計画ですと青谷を10時20分に出発して

10時50分に布勢に到着し、帰りは12時20分発、1時間半程度会場にいて楽しんでいただくことができるような想定を考えております。途中で道の駅を経由しますので、13時10分くらいに帰ってきます。第2便は13時25分に青谷を出発しまして、布勢会場に13時55分に着き、また1時間半程度会場で楽しんでいただきまして、15時25分に布勢を出発し、また道の駅を経由して、16時10分くらいに青谷に戻ってくるというような運行を20日は考えております。

【委員】試合を見るというより雰囲気を見るくらいか。

【事務局】試合はやってるとは思いますけど、時間が一日中というわけではありませんので、試合も見つつ会場の様子を見ていただきながらというような形になるかと思います。

【委員】往復2便だが、もし帰りに80人くらい乗りたい人がいたらどうなるか。

【事務局】基本的には乗っていただいたバスに乗っていただく、1便に乗っていただいた方はその1便のバスに乗って帰っていただくってというような、想定をしております。

【委員】乗ったら点呼して、また同じ人数で帰っていくという意味合いでいいんですね。

【事務局】名簿を詳細にチェックするかどうかはまだはっきりと決めてはいないんですけども、基本的にはそのような形で考えております。ただ、帰りに選手も乗られる可能性もあります。

【委員】帰れない場合がないようにしっかりと説明しておかないと、乗り遅れの心配が出てくる。

【委員】青谷から布勢の便に乗られた方以外の方が 布勢から青谷に帰られる方もおられるかもわかりませんし、もしかしたら書いております通り、選手等が乗るかもわからないので、例えば40人ギリギリ満員で、行きを運行して帰りが50名くらいになる可能性があるのではないかなという心配はあります。そうすると10人が乗れないということになりますけど、そこは満員になった時点で出発をさせていただき旨を予め行きのバスで説明をさせていただいて、1便でそういった状況が起きた場合、2便まで2～3時間くらいお待ちいただくか、布勢から駅までの無料シャトルや公共交通機関を使うなど、他の移動方法をお願いしたいと考えており、人の点呼を取るといったようなことまでは、今のところ計画していません。まだ少し具体的なことが詰め切れてないところではありますので、いただきました意見を参考にしながら皆さんに支障のない運行方法を検討していきたいと思っております。

【委員】自家用車で行くことはできますか？

【事務局】会場には自家用車で来ていただくことも可能です。ただし様々なイベントもしていますので、駐車場がいっぱいになる可能性もあります。それについては鳥取県の方が駐車場を用意しておりますのでその誘導に従って入れる駐車場の方に行っていただくというような形になります。

(2) 地域振興会議会長会について

事務局より説明

質疑なし。

(3) 総合支所改修工事について

事務局より説明（資料については計画図面を回覧して説明）

【委員】要するに、東側は解体されるということか。

【事務局】そうです。東側建物を解体して、跡地に防災備蓄庫が建つ計画になっています。

【委員】車庫は変わらないのか。

【事務局】車庫はそのままです。

<協議事項>

(1) 地域振興未来プランの策定について

事務局より説明

【委員】かみじち史跡公園の魅力が中々伝わってこないと感じているが、漫画等を製作してPRしてはどうか。

【事務局】漫画につきましては、「青谷灯台物語」という青谷の灯台を紹介する漫画を既に日本財団の方で作っていますが、その中で青谷上寺地遺跡をはじめ青谷の成り立ちなどを紹介してありますので、そのようなイメージでしょうか。

【委員】青谷灯台物語程度であれば、ちゃんと薄い冊子漫画で紹介してあるのが史跡公園の中にあります。パンフレットと一緒に史跡公園に遊びに行ったらそれを絶対渡されて、本当にわかりやすいですから読んでくださってと言われて子供も読みやすいのが、冊子で持つて帰れるぐらいの大きさのがあります。

【委員】史跡公園を作られた方のスタンスが、あまり歴史の方だけに偏らないように美術工芸品を主とした美術館のようなイメージとされていて、重要文化財棟でその当時の暮らしであるとか、歴史に深い理解がある方に伝わってくるころがある一方、ガイダンス棟の方は歴史に興味のない私なんかはいいなと思うんですがやっぱり深まりっていう点では、どうなのかと思う。リピーターを増やすために広くいろんな人が知られる為の手立てとしてアニメとかも面白い。滞在時間がもっと長くなったらいい。

【委員】歴史に拘らず公園として様々な人が集まって楽しめるようなコンテンツがあると良い。

【事務局】7月の下旬に小学生を対象にした青少年育成会議で初めて施設の中の湿地探検を行い、小学生が大人と一緒にいろんな虫とかを沢山見つけていました。このようなふれあい体験などができる空間なのか思いました。利用については当然県の管理者とは協議していきませんが、今後様々な活用ができるように提案や協議を進めていきたいと思

います。

【委員】史跡公園は個人的に中に入って昆虫採取も出来たり、夜開放で演奏会が行われたりしているが、あまりそういった事が知られていない。史跡公園自体も様々企画されているが、うまくマッチングしていない。

【委員】公園の整備が途中ということもあり、公園外がただの草原に見えてしまうのが勿体ない。住民の参画という記載があるが、田んぼ地域や畑地域の作業に参加すると、また自分たちがこれ種を植えたとか、ここを整備したというのが出てくると思う。

【委員】史跡公園が法的な制限もあって思ったことが出来ない印象になってしまっているので、住民が関わりやすい形を作っていけたらと思う。

【事務局】史跡公園の今後のあり方については、県が主体となって決めていることですので、中々思ったとおりにいかない部分もあると思いますが、今検討している地域未来プランの中に盛り込んで行きたいことは、地域の皆さんが史跡公園にどう関わっていけるのか、その形を作っていくのだと思いますし、県だけが進めて結局県は地域の声が聞こえない・わからないみたいな話になってしまわないよう、地域で思いを持っていらっしゃる方の意見がちゃんと届くような形を作って、地域の方が史跡公園に関わっていける下地というか体制や環境を作っていくっていうところは、市の役目になるように思っております。ですので、今回のプランの中では、先ほど委員もおっしゃったように地域の方が関わっていける形を作っていくことを目標にさせてもらえればと考えております。

【委員】この地域未来プラン中の、④番の中に地域福祉の充実による元気なまち作りっていう項目があるが、この全部の課題とかを見てる中で、何か子育てとかその若い世代がここに住みたいなって思うような文言が一つもなくて、子育て世帯を支援しますみたいなのがもう少し前面に出るような、これが課題ですよっていうのを青谷町が意識してるよっていうのがわかるような形に課題として挙げられたら、子育て世代が青谷町に住むのではないかと、保育園とかに支援センターなんかで若い保護者さんたちと話をしている中で、青谷町には住んでないけれども、支援センターには青谷に来てるっていう方もおられて、家は浜村に建てましたっていうような方が多い。どうして浜村になったのとか聞いてみると、旧鳥取市内とこの旧気高郡とでは土地代が全然違うと、それだったら浜村で半分ぐらいだからその土地代はこっちにかけて、ていうような人が元青谷町でおられて、なのでその浜村でも青谷でもよければ青谷にそういうその場所があったりすれば、浜村に出ずとも青谷に建てられたのになって思ったりっていうようなのがあるのでそういう実際にこれから子育てをしていく、これから住居を考えるっていうような人たちを、何とかこの青谷町内に留まれるような、もうちょっとここに挙げてもいいんじゃないかなと思いました。

【事務局】子育て支援プランという中で住居地の確保というお話ですが、養郷の近くに長期貸付の住宅土地も一応公社の關係の用意はしていますが、なかなか埋まらないという実態

がございまして、そういったことも含めて検討が必要と考えていますが、そういったこともあるよということでもよろしいのでしょうか。

【委員】多分実際に子育てをしてる方からしたら、養郷に望町があるのだけれども子供がその小学校に通うのに、バスではなく、自分で歩いて、あるいは中学校だったら自転車で自力で通える場所に建てたいっていうのがすごく不満としてあるようには聞いてます。

【事務局】市の方でバスを用意しておりますのでそれで通学は問題ないと思いますし、中学校については比較的近い地域にあると思います。そういった情報が無く全然知らなくて出られた方がいるのであればやはり勿体ないのですが、そういう情報を知った上でその中で検討されて転出という結果になったのであれば致し方ないと考えます。情報提供はしていきたいと思います。

【事務局】住居の確保に関しては、先ほどおっしゃられたように確かに望町がまだ分譲しています。にもかかわらず、そこが選ばれないのは何らかの理由があるのだろうと感じています。一方で、青谷地域内に住宅分譲の民間事業者がないので民間分譲はありません。行政の分譲では、望町でまだ分譲しているのに何故他の場所で分譲をするのかという話になるので、すぐにその対応が出来ないところであり、要するに空き家を活用していくことが一番具体的に実行できる方策と考えています。5番のところに空き家情報発信は町外から住みたい人を増やすように書いていますが、ここは町内から出て行かない、住み続けたい環境を整えていくという思いも盛り込んでいますつもりですけども、分かりにくいので書きぶりを考えていきます。

【委員】青谷かみじち史跡公園で最初建てる時に、地域の人たちで何かいろいろ催し物をやってほしいとの言葉を受けて、音楽祭を企画している。その中で青谷郷土芸能部を立ち上げて、日置のはねそ踊りや青谷ようこそ音頭、ようこそ青谷を踊る時間を作っている。こういった郷土の芸能を盛り上げる取組に協力をお願いしたい。

5番の池田市関係人口の増加について、池田市の関係をずっと繋いだ方がいいのか、聞いてみたい。ようこそ館がコロナ前のときは池田市に行って、鳥取の梨を買ってもらったりとか、いろいろ農産品の販売していたそうだが、PRは大事だが、今でも池田市は重要なポジションにあるのか伺う。

鳥取森田の場所を青谷の人で動かせたらいい。史跡公園のアクセスもいいし、壊れそうなのに誰も手がつけられないっていうのが解消されて、八頭の隼ラボみたいなのができたら、ここは一気に起爆剤になれるのではと思うので、⑤の空き施設の有効活用の括弧の中に、森田染色とかも入れて欲しい。

【委員】例えばどういうふうな感じで青谷に来てもらうか、催しをするっていうのがあって、ウォーキングなどをするとき、例えば空き家が町内駅前でも日置でも勝部の方でもたくさんあると思うんですけど、その中にある程度お試しで一定期間借りるようなことができ

て、その地域の例えば普通の民家の中でご飯が食べれたり、ちょっと何か地域の産物が買えたりってところを駅前のところから、ここはこの期間は市の方で契約してますから、どなたでも自由に催してもらっていいですよっていうことができたなら、史跡公園にも繋がっていくのかなと思います。

また、日置地区は今でも城北地区と交流して産物を持って行ったり何か催しのときは来てくださったりって感じになってるんですが、そういうのがもうちょっと広がって町単位で受けるような感じになればいいんじゃないかなって思ったりします。早牛も今、とってもいい雰囲気のある民家があって、ずっと空き家になってるんです。古い民家ですけど景色、眺めもすごくいいんです。今そこが見える所に蕎麦を入れたり、コスモス植えたりして景観をちょっとでも良くしたいなって思ってるんですけど、個人的にそこを買い上げることができないんですけど、何とか交渉して一定期間、自由に住民の方で使ってもらってもいいですよみたいな感じがあれば、駅前にしても、勝部にしても日置にしてもまた地元で細かく活動してる人が利用できたりってような形で、そこでまた誰か来てもらえば、手応えができる。そういうところに、例えば公民館同士の繋がりのところを活用してもらって広報してもらったりっていうのができないかなって言うふうに常々思ってるんです。

【事務局】 チャレンジショップ事業的なものは他の市町でも鹿野とか聞いたことがありますので事業としてメニューはあると思いますし、ちょうど中山間地域活性化事業の中で空き家活用とかっていう面もあったりするのでそういったところの事業を使う可能性はあるのかなと思います。それに先ほどおっしゃられたようなその日置と城北の里山交流事業をきっかけにずっと繋がっておられるという話を聞いておりますので、そういうところを、いろんな地区が繋がりがながら、関係人口を増やしていくっていうことができるっていうのはすごく可能性としてあると思いましたが、空き家利活用に関しては、一番重要な所有者さんから OK をいただくためには、役場だけでも結構難しくてやっぱり地域の方に助けていただかないと多分成功しないというか、そういう意味では本当に地元の自治会さんとか何かそういう思いを持ってらっしゃる地元の方と一緒にその所有者さんをお願いに行くとか、いうことをやっていく必要があるなというふうに思いますので、逆に言えばそういった地域の協力が得られれば役場の方でも、そういった取り組みには向かっていけるんじゃないかというふうに思いますし、ぜひそういった内容も盛り込んで入れたらいいかなというふうに思います。

【委員】 全ての地区では無理だから、どこか1カ所でもモデルケースを作った方がいい。ぜひともちょっと前向きに、民泊のこともあるしこれから先を見据えて。

【委員】 かみじち史跡公園ですけどもリピーターを増やすことがやっぱり大切なんじゃないかなと思って施設の内容充実っていうのもそうなんですけど、それ以外に青谷町の資源とか環境とかそういうのを活用したものがリピーターを増やすものにならないのかなと思って、以前もちょっとお話をさせてもらったんですけど、鹿野の蓮っていうのがあるんです

けどやっぱりあの花っていうのは人を集める一つの大きなきっかけになるんじゃないかなと思ってまして、例えば初夏の芝桜であるとか、夏のひまわりであるとか秋のコスモスだとか、四季折々に場所を変えてそういう花のある程度まとまった土地があれば、施設と合わせてこられるお客さんも増えるのかなと思ったところです。なかなか史跡公園だけで何度も来ていただくっていうのは非常に難しいと思っていますので、それが地域の賑わい創出にも繋がれば一番いいと思います。これ②番に関係したことなんですけれども、それから同じく②番の関係で先ほども出ましたが、何とかダイキン工業といい連携ができればいいかなと思ってまして、春先にオリエンテーリングをされてるんですけども、いわゆる関係人口を増やす、ダイキン工業の従業員の方との何か青谷との繋がりのようなものってのができないのか、関係人口を増やすことに繋がってこれがまた将来青谷町との繋がりになるのかなと思いました。

それから、青谷町民にとってダイキン工業があることで、WIN の関係が作れないのか、今ダイキン工業の方はいいが町民にとってはどうかと考えてみると、なかなか自分の中では思い浮かばないので WIN-WIN の関係が作れるような、何かないのかなというふうに思ったところです。

それから3点目としてこれも②番に関係することなんですけれども、商品開発について、中学生とか高校生にこういう商品開発に関わらせることがいいのかなと思っており、「蓮アイス」が以前あったんですけども、そういう取組で将来の担い手育成のきっかけにして、やっぱり青谷町を好きになるとか、青谷町を大切にするとか、いわゆる起業家教育にも繋がってくると思いますし、いろんな効果があると思うので、何か商品開発と若い生徒との繋がりが何かできないのかと思います。

最後に大谷さんも言われましたけど、やっぱりアイデア、イベントですね。5番に関係することですけども、イベント支援、例えばさんぽフェスにしても、それから先ほど紹介がありました青谷音楽祭にしてもやっぱりこういうアイデア力とか、それから企画力だとか実行力って本当にすごいことだと思ってまして、何とかこういうものを後押しするような取組って本当に大事にしないといけないと思ったところです。

<その他>

- (1) あおいちギャラリーについて
- (2) 青谷音楽祭について
- (3) こばしまウォーキングについて

事務局より説明。質疑なし